

2026/01/17

AI@Work 2026 Kick off WG3 AIK4PM Retrospective & 2026 Plan

AI@work wg3 リーダー 内藤睦博

Agenda

1. WG3概要
2. 2025年活動内容の振り返り
3. 2026年活動計画

WG3の概要:AI-ReadyなPM育成のコミュニティ

1. ミッション: Community for AI-Ready

- ・ 「基礎学習」と「実践知」を共有するコミュニティ
- ・ 「仕組みを知り（Python）、道具を選べる（導入判断）」AI-ReadyなPMへ

2. Positioning: The Foundation & Bridge

- ・ WG3 (Foundation): AI-Readyへの基礎固め

活動の柱: 基礎 (Python/Dify)

+ 目利き (最新動向/調査)

▼ Go to Next Stage

- ・ WG1 (PM4AI): pm for AI
- ・ WG2 (AI4PM): AI for pm



2025活動実績



2025活動内容の振り返り

- wg3として昨年('25)の以下の2つのテーマで活動しました。
 - ① Python勉強会(workshop)
 - ② 最新AI動向調査
 - ③ wg1 x wg3コラボ

Python勉強会(cycle11)

- 目的：
 - 教材を通して、Python記述 + 機械学習などAIアルゴリズムを学ぶ
 - 時間制約の中でも、学びの場を運営しPMに必要なAI技術/考え方を研究する
- 成果：
 - Pandas基礎→機械学習までを月次で“段階突破”
 - 前処理・特徴量・評価・可視化の“分析の型”を一気通貫で習得

	学習項目	学習内容
25/02	Pandas基礎操作	DataFrame/CSV読み書き、集計・describe理解
25/03	データ加工基礎	read_csv/集計/pivot/loc(concat/日時処理等
25/04	データ前処理・集計	会員構成分析・利用履歴集計でデータ整備
25/05	クラスタリング	KMeans/標準化で顧客グループ化 + 予測準備
25/06	分類基礎	決定木で分類・評価、過学習の観点も確認
25/07	学習方針転換	生成AI/ノーコード/AIエージェント共有型へ



Python勉強会(cycle12)

- 目的：
 - LangChain/LangGraphを使いRAG・AIエージェントを体系的に学ぶ
 - 再現可能な環境構築と運用・改善スキルを獲得する
- 成果：
 - RAG／AIエージェント実装を通じ、検索改善の観点と手順を一気通貫で習得
 - Docker／依存関係／API鍵管理まで含め、再現性の高い実装・運用スキルを獲得

	学習項目	学習内容
25/08	Workshop設計	月次テーマ制で検証→共有→改善する進め方へ転換
25/09	実行環境構築	Jupyter/Colab整備、OpenAI・GitHub連携の基盤作り
25/10	検索改善検証	LangChainでRetriever/検索方法を変え、挙動差を確認
25/11	依存管理・Rerank	Cohereリランク導入、version衝突・再起動・API鍵対応
25/12	ローカル実行・HyDE	Dockerでローカル実行、質問変更比較、HyDEを試行

LangChainとLangGraphによる RAG・AIエージェント [実践]入門



検索拡張生成(RAG)からAIエージェントの
デザインパターンまで基礎知識と実践ハンズオン

OpenAIのチャットAPI・プロンプトエンジニアリング
検索エンジンの工夫・ランクモデル・ハイブリッド検索
LangSmithを使ったRAGアプリケーション評価
LLMを活用したAIエージェントの起源と変遷
LangChain/langGraphによるエージェントデザインパターンの実装

エンジニア
技術評論社

最新AI動向調査

・ 目的 :

- ・ 最新AI動向を継続的にSurveyし、PMが業務で使うべき「道具選定」の判断軸を整える
- ・ 実践知（試行手順・留意点）を共有し、AI-ReadyなPMの目利きと実務適用力を高める

・ 成果 :

- ・ RAG（LangChain/Dify/MyGPTs）と最新検索（Perplexity）を調査・試行し、根拠ある情報収集・ナレッジ活用の型として報告
 - ・ 議事録/要約（NotebookLM）と実行型エージェント（ChatGPT Agent/Genspark/Devin）を検証し、業務効率化の適用例として報告
 - ・ 画像/動画生成（4o Image/Nano Banana/Veo/Sora）と評価（精度・安全）を比較し、導入判断の選定軸と留意点として報告
- 最新AIツールの得意/不得意を試行で見極め、用途に応じた使い分けを習得

最新AI動向調査での報告内容(cycle11)

Category	学習内容	
Knowledge / RAG (知識検索・根拠付き回答)	2月	LangChain/Dify : RAGの全体像と実装ルート比較（何を使うかの判断軸提示）
	2月	LangChain : Loader→Chunk→VectorDB→Retriever→Chainを分解解説（部品理解）
	3月	NotebookLM : 資料投入→要約→Q&A→メモ保存をデモ（調査・読解の時短手順）
	4月	技術俯瞰資料 : RAG/GraphRAG/開発ツールを地図化して共有（選択肢整理）
	7月	Dify : 埋め込み + ベクトル検索でRAGを実装・検索品質を検証（精度検証の勘所）
Agent / Workflow (タスク遂行・自律実行)	3月	概念整理 : AIエージェントの定義・分類を説明（"回答"→"実行"への変化共有）
	3月	要件定義エージェント例 : インタビュー→不足判定→生成ループを提示（業務フロー化の型）
	4月	AI Agent Design Canvas : 入力/KPI/監査/連携まで設計項目を整理（設計の共通言語）
	5月	Dify : ワークフローを実演 + GPT→Gemini切替とプロンプト差の注意点共有（運用ノウハウ）
	7月	Devin/Artifacts : 自律開発エージェント紹介 + 成果物可視化共有（実装→共有高速化）
Multimodal / UX (音声・動画・体験の拡張)	5月	NotebookLM : 日本語音声要約を紹介（"読む"→"聞く"で共有が速い）
	6月	Dify/NotebookLM : 音声→議事録→Q/A確認フロー案を共有（会議業務への適用像）
	6月	Veo3 : 動画生成をデモ + Veo/Sora比較、プロンプト運用の勘所整理（品質と制約把握）
	7月	NotebookLM : mp3投入、vtt字幕→txtルートも提示し議事録運用手順を整備（再現性）
	7月	Veo3/Claude Artifacts : Veo3動画を説明文/要約へ変換し、ArtifactsでUI試作を共有

最新AI動向調査での報告内容(cycle12)

Category	学習内容	
Knowledge / RAG (知識検索・根拠付き回答)	8月	Deep Research (ChatGPT/Gemini) : AGI/世界モデル等を調査し、比較観点を要約して共有
	8月	Connector (Gemini/ChatGPT/Claude) : Drive/Calendar/Gmail連携を整理（業務参照の入口）
	10月	MyGPTs × RAG : 複数議事録をRAG化し、横断検索で論点抽出する構想を共有
	11月	Comet Browser : 出典付き検索 + ページ要約で調査→論点整理→レポート化の流れを提示
	12月	NotebookLM : 資料投入→要約・理解支援で、共有用の“読み込み”を高速化
Agent / Workflow (タスク遂行・自律実行)	8月	ChatGPT Agent : 実行型エージェントの機能整理（タスク実行の方向性を共有）
	8月	Genspark : 予約/通話代行やPPT生成など、実行タスク例で強みと留意点を整理
	10月	評価設計（精度指標） : Accuracy/F1等 + 用途別指標を整理し、評価の土台を整備
	11月	Comet × Colab : コード生成→実行→エラー修正まで回し、LangGraph雛形作成を提示
	11月	Comet × Dify : 指示でワークフロー作成・操作代行をデモし、自動化の入口を共有
Multimodal / UX (音声・動画・体験の拡張)	9月	Nano Banana (Gemini) : 画像生成・編集（部分編集/一貫性）を試行し使い所を整理
	11月	Comet Browser : ブラウザ上で調査→資料化まで支援する体験（PM作業の体験改善）
	12月	4o Image / Nano Banana : 画像編集を比較（横長化など得意/制約を確認）
	12月	Veo3.1 / Sora2 : 動画生成を比較し、プロンプト運用の勘所を共有
	12月	AISI(aisev) : 生成物/回答の安全性・品質を評価する仕組み（自動レッドチーム）を紹介

wg1 × wg3 コラボ

- **目的：**
 - WG1の「PM知見（設計）」とWG3の「技術知見（実装）」を融合し、実務適用の具体像を提示
 - フレームワーク（Canvas）の実効性を、実際の実装（Dify）を通じて検証
- **活動内容：**
 - PMI日本フォーラム2025にて「AIエージェントの最前線」をテーマに共同発表
 - WG1が設計した要件（Canvas）を、WG3が調査したツール（Dify）で即座に実装・検証
- **成果：**
 - 「設計（WG1）」×「実装（WG3）」の融合モデルを提示
 - 技術知見により、机上の構想を「動くプロトタイプ」へ具現化

2026活動計画



最近のAIの流れ（2025トレンド→2026 活動方針）

2025年のAIトレンド

- Reasoningモデルの普及 : 判断を高速・高精度化
- 自律実行型AIへの進化 : タスク遂行を自動化
- Vibe codingの広がり : 試作・改善を高速化
- No/Low-code AI拡大 : 非エンジニアでも実装
- マルチモーダル実用化 : テキスト以外も処理

2026年の活動方針

AIの大衆化（No/Low-code化・Agent化）により
PMには「選ぶ力」と「使い切る力」が必須になる。

- Tool選定力 :
最新AI動向を継続把握し、使い分けの判断軸を習得。
- 実装力 :
Hands-onで手を動かし実装手順と運用の勘所を習得。

AI-ReadyなPMの勝利の方程式：
PMの知見 × Tool選定力 × 実装力（使い方）

- PM知見（HITL） : AI出力を目的・制約と照合し、妥当性を検証して最終判断する力
Tool選定力 : 得意/不得意・コスト・安全性で最適ツールを選ぶ力
実装力（使い方） : Hands-onで試行し、業務に組み込み再現性ある運用へつなぐ力

2026活動計画(テーマ一覧)

- 2026の活動方針を踏まえ、以下のテーマで活動します。
 - ① 基礎Workshop (Dify×AIエージェント)
 - ② 最新AI動向調査
 - ③ wg1 x wg3コラボ
 - ④ LLM大規模言語モデル講座資料 (輪読)

基礎Workshop (Dify×AIエージェント)

目的 :

- ・ ノーコード/ローコード (Dify) で“実行するAI”を動かし、PMが業務に適用できる実装感を掴む
- ・ 動かす→詰まる→直す→改善するの反復で、導入時の落とし穴（環境・鍵・設定）まで含めて体験知にする

教材・対象範囲 :

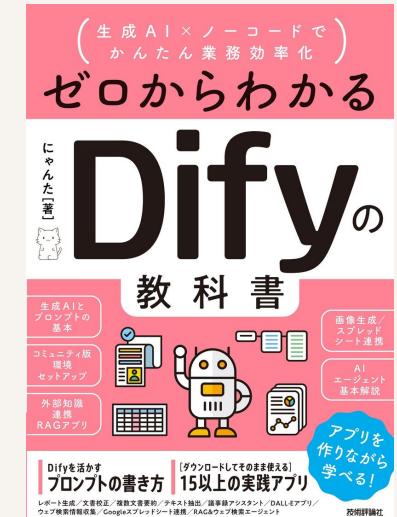
- ・ 書籍：『ゼロからわかる Dify の教科書』（にやんた）

学習内容 :

- ① 環境準備 : Dify起動 + APIキー設定（まず動かす）
- ② エージェント体験 : Workflowを動かして、入出力と挙動を理解
- ③ 改善実践 : プロンプト/フローを少し変えて、効果を確認して共有

進め方 :

- ・ みんなで同時進行：同じ手順と一緒に進めて、まず「動いた！」まで最短で到達
- ・ つまずき共有→その場で解決：ハマリどころは即相談、みんなでサクッと潰す
- ・ 学びを残して次に活かす：手順・注意点・コツを1枚にまとめて、次回の“時短”にする



最新AI動向調査

目的：

- 各自の調査を通じて、最新AIツールの得意/不得意を把握し、PMの導入判断を強化する
- 使い方（手順・注意点・失敗例）まで共有し、チームの実務適用（活用）スピードを高める

学習内容：

- 個人調査：各自が興味ある最新AIツールを選び、機能・強み・制約を把握する
- 比較・目利き：用途別に得意/不得意、コスト、リスク（精度/安全）を整理し判断軸を作る
- 共有・実務適用：デモ/事例で共有し、PM業務（調査・会議・資料・意思決定）への使いどころを持ち帰る

進め方：

- 各自で調査：気になる最新AIツールを選び、短時間で触って要点をまとめる
- 事前すり合わせ：テーマ打ち合わせで重複を調整し、狙い・観点を揃える
- 月例で共有：デモ+学び（得意/不得意・注意点・使いどころ）を共有

Working Group間コラボ

目的：

- Working Groupの垣根を越え、PMの知見を最新AIで具現化する。
- 議論を机上の空論にせず、「動くプロトタイプ」として実証する。

進め方：

- ① 連携テーマの協議・企画 具体的なテーマや進め方は、各WGの活動状況に合わせて都度協議し、決定する。
- ② 柔軟な実装パートナーシップ 他WGで生まれたアイデアや課題に対し、最適な実装アプローチを共に模索する。

LLM大規模言語モデル講座資料（輪読）

目的：

- ・ 松尾研の講義スライドを輪読し、LLMの仕組み（原理～社会実装）を体系的に理解する
- ・ 生成AIの“中身”理解を土台に、プロンプト設計・RAG/Agent設計の勘所を腹落ちさせる

学習内容：

- ① LLMの基礎理解：モデル構造・学習の考え方・性能が出る理由を押さえる
- ② 実務への翻訳：Promptの書き方／失敗しやすいパターン／設計のコツを整理する
- ③ 設計の共通言語化：チーム内で「なぜそう書くか／なぜその構成か」を説明できる状態にする

対象者：

- ・ 生成AIを使っているが、仕組み・原理から理解を深めたいPM/実務メンバー
- ・ Prompt/RAG/Agentを“感覚”ではなく、理由を持って設計したい人

さいごに

WG3では参加メンバーを随時募集しています！

AIはPMの代替にはならない。でも、使いこなせばゲームチェンジャーになり得ます。

- Python/LLMの基礎を押さえたい方
- 最新AIツールを試して、使い分けのコツを知りたい方
- Difyなどで手を動かし、RAG/AIエージェントを体験したい方

まずは気軽に月例会へ。見学だけでも大歓迎です。

月例会：毎月第4水曜 19:00–20:00（オンライン）

本資料および動画の著作権について

本資料および動画の著作権は、PMI日本支部に帰属しています。

本資料および動画の一部分または全部を著作権者に無許可で複製、転載、公衆送信、口述、上映、出版、頒布、貸与、編集するなどして使用することは著作権法に反することとなります。